

「アートと地域と美術館」

(2023年11月17日@鹿児島大学ラーニング・コモンズ2) 報告

法文学部人文学科多元地域文化コース 准教授 太田 純貴

「地域とアートの相互作用を発掘・検証しその可能性を探究するプロジェクト」の一環として、アートと地域と美術館、および三者の関係について多角的に知見を獲得し議論することを目的に、祝迫眞澄氏（都城市立美術館学芸員）と宮蘭広幸氏（霧島アートの森学芸員）を登壇者に迎えたトークイベント「アートと地域と美術館」を2023年11月17日（金）（於・鹿児島大学法文学部ラーニングコモンズ2）に開催した。

祝迫氏からは、団体鑑賞や企画展「アルフォンス・ミュシャ展」の一環として都城市の高校生によるバナーデザインプロジェクトの開催、高校生による現代美術作家・高嶺格作品のメンテナンスなど、都城市立美術館と地域との関わりを示す事例を多数ご紹介いただいた。また、お話しいただいた都城市立美術館の歴史・前史は、東京という「中心」から宮崎という「周縁」への美術概念の伝播（をめぐる力学）や、地域の作家と地域の美術館の関係性を考える上で、極めて重要な事例となるように思われる。

宮蘭氏からは、パブリックアートやサイトスペシフィック・アートなどの概念を中心に、現代アートを理解するための文脈についてお話しいたきつつ、その文脈における霧島アートの森や収蔵作品、美術館がもたらす体験の位置付けについてお話しいただいた。同時に、大隅アートライブ展のような地域との関わり・対話、大寺聡氏のような地域のアーティストとの関係についても知見を得ることができた。これらは鹿児島と現代アートの関係を検討していく上で、有益な補助線となる。

本イベントで印象的だったのは、登壇者

のご発表に加えて、学生たちからの質問である。サードプレイスとしての美術館の可能性、作品売買が不可能な場所としての美術館に関する質問が、学生たちから提出された。これら以外にも、美学や日本近現代美術史、美術史と人類学の交差点において、継続的な検討に値する質問ばかりであったことは記しておきたい。

鹿児島市の芸術文化センター 令和5年度地域アートプロジェクト推進協議会

アートと地域と美術館

美術館といえば、まずは作品や展覧会が思い浮かぶでしょう。しかし、美術館の役割や学芸員の方々の仕事は、作品や展覧会に限られる、もしくは受け入れるだけなのではないでしょうか。そして、作品や展覧会に関わるということも、実際のところはどのように関わっておられるのでしょうか。今回のトークでは、都城市立美術館の祝迫眞澄さんと霧島アートの森の宮蘭広幸さんと一緒に、「五つ星の美術館」かもしれない美術館について特に地域との関わりを中心に話し合います。

日時
2023年11月17日(金)
14:30~17:40

会場
鹿児島大学法文学部
2号館 2F ラーニング・コモンズ2

一般公開
参加費無料

申し込み方法
下の二次元コードから事前の申し込みが必要です。

登壇者：祝迫眞澄（都城市立美術館 学芸員）
宮蘭広幸（霧島アートの森 学芸員）
モデレーター：太田純貴（鹿児島大学 准教授）

(スケジュール)
14:30~14:40 趣旨説明
14:40~16:00 登壇者による話題提供・意見交換 締切：11月10日(金)
16:10~17:40 参加者全体でディスカッション 15時まで

